

オープンから半年 来所者 6,600 人を超える

和歌山県や静岡県など遠方からのお客様も

- 【来所いただいた団体様】（一部抜粋）
- 羽黒吟社 様
 - 余目ロータリークラブ 様
 - 鶴岡市際区社会福祉協議会 様
 - 鶴岡市第一学区文化財愛好会 様
 - 御殿町老人クラブ 様
 - 鶴岡市中央公民館女性センター 様
 - 名取りやま講 様
 - 酒田市亀ヶ崎ほほえみ学級 様
 - 酒田人権擁護委員協議会 様
 - 庄内町商工会女性部 様
 - 鶴岡市第三学区ふるさと愛護会 様
 - 西川町吉川地区地域づくりの会 様
 - 新堀コミュニティ振興会 様
 - 山形市大郷郷土研究会 様
 - 余目第一小学校ふるさと学習 様
 - 立川シルバー人材センター 様
 - 余目南口老人会 様
 - 上藤島町内会 様
- ほか

今年四月二十七日オープン後、清川関所を訪れた方は十一月初旬で六千六百人を超えました。施設内で実施しているアンケート調査によると、東北地方からはもちろん、静岡、愛知、大阪、京都、和歌山などからも来所いただいております。和歌山県からバイクでお越しのお客様からは「ゆつくりできるスペースでとても落ち着ける」、静岡県から電車とレンタカーでお越しのお客様からは「江戸時代の道中記が興味深



清川幼稚園、狩川幼稚園の皆様

かった」というお声をいただいています。地元清川幼稚園と狩川幼稚園の小さなお客様も、清川散歩で御殿林をくぐり抜けてお越しくださいました。（写真）

清川歴史公園かわら版

- 発行所
清川歴史公園
管理運営委員会
- 連絡先
庄内町
立川総合支所
立川地域振興係

清川歴史公園管理運営委員会では、食堂・売店・ガイドなどにご協力いただける方、一緒に地域を盛り上げていただける方を募集しています。役場立川総合支所立川地域振興係までお気軽にお声がけください。

連絡先 ○二三四五六二二三

清川関所 映像コーナーのご紹介

清川関所川口番所では、大型テレビで清川地区や日本遺産などの紹介映像を上映しています。お茶を片手に映像コーナーをお楽しみください。



- 映像
日本遺産プロモーション映像
- 制作
出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会



- 映像
清川地区プロモーション映像
- 制作
清河八郎顕彰会



- 映像
庄内町観光プロモーション映像
「TACHIYAZAWA Wonder Land」
日本・東北の原風景に出会える場所
- 制作
庄内町観光協会



- 映像
清河八郎プロモーション映像
「清河八郎」
～早すぎた天才・幕末維新の火付け役～
- 制作
清河八郎大河ドラマ誘致プロジェクト

御殿茶屋のお知らせ

お食事処御殿茶屋では、温かいうどんやそばせんざいなどをお召し上がりいただけます。

営業時間は土日祝日の午前十一時から午後二時までですが、団体様で平日（定休日、冬季休館中を除く）にお食事をご希望の場合は、事前にご連絡いただければご相談に応じますので、清川関所（電話〇二三四二五五八八五）までご連絡ください。

冬季休館のお知らせ

清川関所と清河八郎記念館は、十二月から冬期間休館となり、来年三月に再開いたします。

雪解けの頃、また皆様にお越しいただけるのをお待ちしております。

【冬季休館】

十二月～二月

【再開】

令和二年三月



幕末の志士 清河八郎の再評価を

YTS 山形テレビ「提言の広場」第 2483 回シリーズふるさとの偉人 5 ～9月28日放送～

庄内町副町長

阿部金彦氏

○清河八郎は、東北の田舎から藩の後ろ盾もなく維新の回天の中心人物になり、草莽の志士であるがゆえに誤解を残しながら流星のごとく走り抜けた人。

○清川関所は、多くの旧跡・伝説が残る清川の歴史を楽しみ、観光やまち歩きの見どころとして使い、地元観光ガイドと連携して観光人口の拡大を目指す施設。

○今後は清河八郎記念館や旧跡などと連携してイベントを開催するなど、アイデアを出しながら誘客につなげていきたい。

清河八郎記念館館長

廣田幸記氏

○清川は宿場町で栄え、多くの旅人が訪れた情報の発信地だったが、その情報が正しいものか偽物か、自分の目で確かめようと動くのが清河八郎という人。

○学びに対する貪欲さと、親孝行だったことが有名なところ。

○清川関所のオープンもあり、清河八郎記念館の来館者は前年比百二十パーセントになっている。今後も連携して清河八郎のファンをもっと増やしたい。

山形経済同友会会員

鈴木富士雄氏

○清河八郎は、母なる川「最上川」による物流や人の流れの交

流点で「井の中の蛙」にならず多くを学んだ人。あれだけの偉業を成し遂げたのは、高い志と情熱があればこそ。

○まだまだブランド力は少ない。「西の吉田松陰、東の清河八郎」というキャッチフレーズ、維新の扉を開いたのは清河八郎だというイメージを全面的に押し出して名前を知っていたことが必要不可欠。

○究極の観光事業は「元気を与えること」と思っている。明日からの元気のエネルギーを与えるのが観光。清河八郎の生き様はまさにそれを与えてくれるもの。

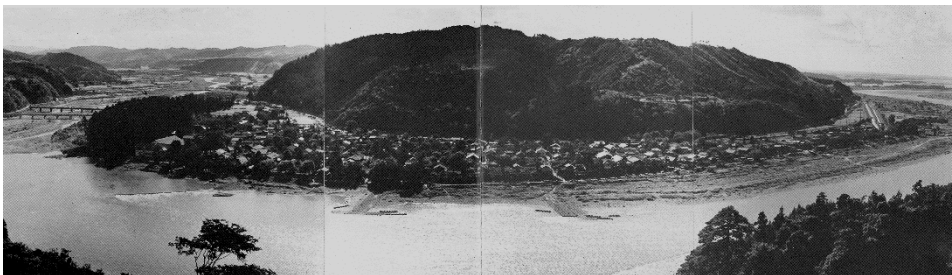
○清河八郎の生き様をこれから世代に伝えて、第二の清河八郎を地域をあげて人材育成していくことに協力したい。



左から YTS 熊谷瞳アナウンサー、庄内町副町長 阿部金彦氏、清河八郎記念館館長 廣田幸記氏、最上映画蕉ライン観光代表取締役 鈴木富士雄氏

写真で見る清川の歴史

舟運の宿場町清川は、堤防の役割も担う現在の国道ができるまで、川のすぐそばで生活を営んできました。清川を襲った大洪水は明治八回、大正二回、昭和八回と数えられており、明治時代には新屋敷の一部を残して全戸数の大半が浸水し、清川学校も流失。東雲橋も流失するなど、大きな被害に悩まされ続けました。一九四九（昭和二四）年、清川村護岸工事促進委員会が作られ、整備が進められました。現在の東雲橋と国道が完成したのは一九六九（昭和四四）年十一月。今からちょうど五十年前になります。全国的に異常気象とも言える大雨が毎年のように被害をもたらしています。災害への備え、災害時の行動など再確認しましょう。



清川全景 1958年(昭和33年)ごろ 国道はまだ整備されておらず、川のすぐそばで生活が営まれている

俳句を募集しています

清川関所は、松尾芭蕉上陸の地としても知られ、多くのお客様が「松尾芭蕉ゆかりの地」を目的に観光にいらつしやいます。そんな松尾芭蕉や俳句好きのお客様はもちろん、地元の方からも歴史散歩、俳句散歩をお楽しみいただき、思い思いの俳句を投稿していただきたく、清川関所川口番所内に投句箱と応募用紙を設置しております。お寄せいただいた俳句の中から、清川の歴史、風景、風土に合った作品を展示させていただきます。

皆様の素敵な作品をお待ちしております。

現在、五月に清川関所で句会を開催された羽黒吟社の皆様の俳句数点を、船見番所の一階に展示させていただきます。

船見番所 1階に展示しています



この応募作品紹介
維新の志
栄ちし地に立つ
曼珠沙華
陶山茅子様

